

会 議 録

会議名称	平成27年度 第2回 佐倉市子育て支援推進委員会
開催日時	平成28年3月17日(木) 午後2時～午後4時
開催場所	健康管理センター 大会議室
出席者等	委 員：田中委員長、網仲副委員長、早坂委員、長島委員、 平岡委員、川津委員、田代委員、奥山委員、小野寺委員、 事 務 局：山辺健康こども部長、 子育て支援課 佐藤課長、宮本主幹、堀越主査、辻口主査、 照井主査補、土屋主査補、小高主事
会議議題	(1) 佐倉市子ども・子育て支援事業計画における指標設定について (2) 佐倉市子ども・子育て支援事業計画の見直しについて (3) 家庭的保育事業等の認可について (4) 特定教育・保育施設等の利用定員の設定に係る意見聴取について
会議経過	別紙、平成27年度 第2回 佐倉市子育て支援推進委員会 会議録のとおり

【 1 開会】

【 2 佐倉市健康こども部長あいさつ】

【 3 議題等】

●議題 1 佐倉市子ども・子育て支援事業計画における指標設定について

●議題 2 佐倉市子ども・子育て支援事業計画の見直しについて

●議題 3 家庭的保育事業等の認可について

●議題 4 特定教育・保育施設等の利用定員の設定に係る意見聴取について

【議題（1）佐倉市子ども・子育て支援事業計画における指標設定について】

（事務局説明）

●資料 1 により、指標（案）について説明

（委員長）

それでは、ただいま説明のあった佐倉市子ども・子育て支援事業計画における指標設定について、ご意見、ご質問はあるか。

まず、基本目標 1「質の高い教育・保育の総合的な提供」について意見や質問はあるか。

（委員）

事業 3「幼稚園教諭、保育士の資質の向上」についての指標があるが、「研修の実施回数」という指標では、施設の規模の大きさによって、職員が受講する研修回数について、不公平が生じるのではないか。内部研修と外部研修を区別した上で、職員ひとりあたりの研修受講回数を指標とした方が明確になると思う。

（事務局）

内部研修と外部研修の実施回数と研修参加人数を記載するという
ことでよいか。現在指標としている保育園の研修は、市主催の研修で

ある。全般的内容や意見交換など様々な種類のものが含まれている。研修参加人数を指標とすることは可能である。

（委員）

研修参加人数までの指標は必要ないが、全職員が受講し、受講回数も回数が増えていくことが理想であると思われるが、いかがか。

（事務局）

研修回数を増やしても、現場を離れられない現状もあるため、回数を増加し続けることは難しい。

（委員）

では、年間 1 回の外部研修の受講という指標設定はいかがか。

（委員長）

現在の指標は、幼稚園は参加回数である一方、保育園は実施回数であるため、一部の人の参加となり質の向上に結び付かないのではないかという誤解を生みやすい。

（委員）

全国平均では、保育園より幼稚園の方が研修時間の確保がされている。子ども・子育て支援新制度の公定価格において、ひとりあたり 2 日の研修受講が想定されているが、この指標では改善がされているとは言えない。すべての職員が平均的に研修受講できる環境を目指していただきたい。

（委員長）

研修受講した職員が職場に戻り、他の職員に研修内容を共有していることから、研修参加者のみにメリットがあるわけではないが、より客観的な指標設定のために職員ひとりあたりの研修受講回数を指標とされたい。

（事務局）

研修の実施回数と参加回数が混在し指標として明確でないため、1 年間で 1 人あたり研修に何回参加できるのかという視点で指標設定するように再検討する。

（委員長）

次に、基本目標 2「地域における子育て支援」について意見、質問はあるか。

（委員）

事業 13「地域子育て支援拠点事業の拡充」の指標について、怒鳴らない子育て練習講座の年 3 回の講座の実施とあるが、1 回の対象人数を指標としたほうがわかりやすいのではないか。

（事務局）

講座の受講人数を指標とするように修正する。受講人数は講座 1 回

につき 15 人程度である。怒鳴らない子育て練習講座は講義方式ではなく、対面式で実践していくため、一度に多くの受講は講座の性質上難しい。

（委員）

事業 15 「その他の相談体制の充実」の指標について、子育て世代包括支援センターの数 4 か所の根拠は。事業計画で使用している各圏域（5 圏域）にあったほうが望ましいのではないか。

（事務局）

市役所の子育て支援課、健康管理センター、西部保健センター、南部保健センターの 4 か所である。まずはこの 4 か所で事業開始し、ニーズ等を把握していき適正な箇所数について検討をしていく。

（委員長）

基本目標 3 「すこやかに生まれ育つ環境づくり」について意見、質問はあるか。

（委員）

事業 24 「訪問指導の充実」の指標で、乳児家庭全戸訪問実施率がずっと 95 % はなぜか。100 % にはできないのか。

（事務局）

実際に 100 % 達成したいという思いはあるが、連絡が取れない等の理由により、極めて 100 % に近づけることはできるが、不可能であることから 95 % としている。

（委員長）

基本目標 4、仕事と子育てを両立させる社会づくりご意見・ご質問はあるか

（委員）

事業 31 「仕事と子育てが両立できる就業環境の整備・充実」の指標で、市役所内の事業所内保育施設の設置検討を先進的にやっていく方向ということであるが、それについての説明を伺いたい。

（事務局）

佐倉市も一事業所として、職員の子育て支援していく立場にある。以前より事業所内保育施設の検討がされてきたが、市庁舎の敷地内での実施や予算等の課題がある。引き続き、機をとらえて検討を行う必要がある。

（委員）

事業所内保育施設の検討にあたり、市役所内での保育を必要とされている職員や子どものニーズはどの程度あるのか。

（事務局）

ニーズ数については、調査をしていないため不明である。市職員で保育が必要な家庭でも、事業所での保育施設の利用が希望する家庭、居住地での保育を希望する家庭があり、保育が必要な人数と事業所内保育事業を利用したい人数がイコールであるとは考えていない。

（委員）

事業所内保育施設を前向きに検討していくのであれば、職員にアンケート調査を実施し、利用希望者数を把握しておく必要があるのではないか。

（事務局）

この会議で意見があったことを担当部署へ伝えて、希望状況を正確に把握する手法を検討していきたい。

（委員）

事業 31「ふれあい体験の推進」については、見学会の実施等を通じて、その施設を知ってもらうことが大事であると思う。直接子ども達が来て子ども達の様子を見るだけでも講座の持つ意味が深まると考える。

（委員）

保育実習は全中学校で実施しており、赤ちゃんとの触れ合い体験は生徒も大変感動しており、素晴らしい事業だと思う。来年度以降も実施していただきたい。また、事業 28「大切ないのちを育むまなびの推進」の指標である職場体験においても、実施数の確保の課題はあるが、継続的に実施していきたい。

（委員）

自身の園で交流事業の実施後に、子どもからお礼の手紙をいただき、子どもの素直な想いが感想文に表れていた。子ども自身が多くの体験をすることが、心を豊かにして学びにつながっていくと感じた。社会教育課や子育て支援課からの一層の支援により、実施が深まるのではないか。

（委員）

交流事業は大切であると感じる。児童センターは 18 歳未満が対象であり、対象年齢に幅があるが、異年齢間の関わり、ふれあいについてはどうか。

（委員）

施設に赤ちゃんを連れた親子の利用があると、小学生・中学生が面倒を見ている様子があり、いい経験であると感じる。一方で、利用児童の年齢により利用方法が異なる難しさがある。利用年齢の再検討が必要であるとも感じる。また、利用できる公共施設を転々としている小・中学生が見受けられることが課題である。

(委員長)

基本目標 5、配慮が必要な子ども・子育てへの支援にご意見・ご質問はあるか。

(委員)

事業 44「関係機関の連携強化」の指標である、「障害児巡回相談回数」の実施内容が年 30 回とあるが、不足していないのか。

(事務局)

巡回相談の対象施設は、認可保育所・幼稚園の他、学童保育所を対象としている。回数を増やして充実させたいという担当者の声があるため、今後検討していきたい。

(委員)

今後は、30 回以上になる可能性もあると考えてよいか。

(事務局)

人員や予算の問題があるが、増やす方向で検討を進めていきたい。

(委員)

支援が必要な子どもも増えている現状から、巡回相談は大切である。

(委員)

巡回相談はどのような専門職が実施しているのか。

(事務局)

おもに、言語聴覚士、保健師、子育てコンシェルジュが対応している。

(委員)

臨床心理士はいるのか。

(事務局)

定期的ではないが、臨床心理士が実施している。

(委員長)

基本目標 6、子どもの最善の利益を支える仕組みづくりに関してご意見、ご質問はあるか。

(委員)

事業 48.「子どもの社会参加の促進」の指標「子供議会参加学校数」の平成 29 年度の 12 校とあるのは、11 校ではないか。

(事務局)

11 校が正しいため、訂正する。

(委員)

事業 52 の相談体制の充実について、情報提供はどのように実施するのか。

(委員)

千葉県のリーフレットや学校だよりを活用している。子ども自身からの相談は、学校内に配置されている相談員への相談が行われている。

（委員）

不登校の子などへの情報提供はどのように実施しているのか。

（委員）

学校が中心となって、適応指導教室等の紹介を行っている。その他市役所児童青少年課とも連携を図っている。

（委員）

子ども自身から、気軽に電話したりできる手段はあるか。

（委員）

学校から連絡が取れない子が一番心配であるが、ポスティング等により、できる限り情報を伝えるようにしている。

（委員長）

この点については、指標にはないが充実を図っていただけるように進めていただきたい。

（委員）

事業 52 の指標である、「スクールカウンセラーの配置校数」は、現状全校配置されていないが、ニーズが増えてきていることから、増加していく指標設定は難しいのか。

（事務局）

いただいた意見は、担当課へ伝える。

（委員）

子ども自身が悩んでいる時に、電話をかけるというのは負担であることから、EメールやLINEなどの匿名で発信できる窓口があると、子ども目線で利用しやすく、市や専門機関ともつながりやすいのではないか。

（事務局）

子どもが、どのようなメディアを利用しているのかを検討する必要があると感じるので、いただいた意見を含めて教育委員会へ伝える。

（委員）

小学校高学年から中学校にかけての部活動は、教育的な効果がある。クラブ活動等が引き続き活発に行われることを希望している。

議題（２） 佐倉市子ども・子育て支援事業計画の見直しについて】

（事務局説明）

●資料２により、指標（案）について事業計画の見直し方法について

説明

（委員長）

それでは、事務局の説明内容について意見・質問等がある場合は挙手をお願いします。

「質疑なし」

【議題（３） 家庭的保育事業等の認可について】

（事務局説明）

●資料 3-1、3-2 により説明

（委員長）

事務局の説明内容について意見・質問等がある場合は挙手をお願いします。

（委員）

感想になるが、保育の量の確保が優先しており、保育の質・環境の面が置きざりになっていないかということを危惧している。市が認可する施設については、子どもにとって良い環境が整備されるという視点を持って取り組んでいただきたい。

【議題（４） 特定教育・保育施設等の利用定員の設定に係る意見聴取について】

（事務局説明）

●資料 4 により説明

（委員長）

事務局の説明内容について意見・質問等がある場合は挙手をお願いします。

「意見なし」

（委員長）

意見聴取は以上とする。

平成 26 年の委嘱を受けて、本日が最後の委員会となりますので、委員から一言発言をいただきたい。

（委員）

1人でも多くの市民が「子育てが楽しい」と感じる街になってもらいたい。そのためには、選択肢がたくさんあることや、質（内容）を充実が必要である。保育は、最終的には「人」であるため、質の向上を図る機会を提供する市側の予算配分が求められる。市が住みやすい街になることを期待している。

（委員）

インターネットやスマートフォンの普及などで子どもを取り巻く環境が変わっていると感じている。大人だけでなく子ども自身の意見が市役所に届くような機会があると良いと感じる。

（委員）

市で整備すべき点は進めていただき、市が行き届かない点について、民間の機関が活躍していければと思う。子ども自身が困ったときに「自分は助けてもらっていいんだ」と思える、自己肯定感を高められるような活動をしていきたいと思っている。

（委員）

子どもの最善の利益を事業計画に入れていただき良い計画となったと感じている。子どもの権利条約の中身が伴ったものとなるように、住民として協力していきたい。

（委員）

事業計画の策定に尽力された行政に感謝する。

（委員）

事業計画を読んで自分自身が勉強となった。引き続き、学校側からも意見を出していきたいと思う。

（委員）

子どもを育てる仕事に携わりながら、常に父母の応援をしたいという思いがある。この委員会で、様々な立場の人から意見が聞けて良い機会となった。

（委員）

人口減少の問題がある中、目の前にいる子どもたちのために何ができるということを考える2年間であった。子どもの権利は大人が守ってあげなければならないと感じている。市の大きな施策を検討する中でも、個別的な事業を実施していくことの大切さを学んだ。

（委員）

自らの仕事でも保育に関わってきたが、本委員会の委員になり知った一時預かりを紹介し、育児をしながら仕事を続ける従業員がいてありがたかった。今後も社会情勢の変化に対応していくことは大変だと思う。

（委員長）

委員のみなさまの活発な議論より、委員会を進めることができた

感じている。計画策定にあたっては、市の尽力にも感謝している。今回は、事業計画の指標を設定したが、事業の中身が大切であるため、見守るだけでなく、自らもアクションを起こしていきたい。

（委員長）

それでは、これをもって本日の会議は終了する。これで議長の任を解かせていただく。

（事務局）

これをもって、平成 27 年度第 2 回子育て支援推進委員会を終了させて頂く。

閉会

以上